

平成26年度スーパーバイザー事業報告書

研究テーマ「自己指導能力を高める指導の実践

～生徒指導の三機能とESDを生かして～

三朝町立三朝中学校

スーパーバイザー：国立教育政策研究所 西野真由美 総括研究官

1 はじめに

今日の社会において、高齢化・過疎化、薬物事件、社会モラルの低下等がクローズアップされている。また、家庭においては、少子化、核家族化、育児放棄の増加等生徒を取り巻く環境が変化している。学校現場においては、基本的な生活習慣の乱れ、不登校等、現代社会のひずみが色濃く反映されてきている。その中で、家庭における教育力の低下と地域が補っていた教育機能が弱まったことで、大切な道徳性を身につけていない生徒が増加していることも事実である。

そこで、本テーマを実践することで、『自己指導能力を高めることにより、生徒個々が現状の課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度が身に付き、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養うことができるであろう。』という仮説を立てた。

道徳的心情が「よりよい生き方を実践するために必要な意志や志向」であり、自己指導能力は「考え、判断し、行動する力」である。道徳的心情や自己指導能力は、「善」や「正しい行動」の根幹になる意志や志向が育たないと、判断・実践に結びつかないものである。そこで、道徳的心情が育てられることにより道徳的判断力につながり実践力となり、豊かな道徳性が育つ。豊かな道徳性は、よりよく生きることと捉えることができる。そのために、「生徒指導の三機能」と「ESD」を融合させた視点で授業改善を図ることで培うことができると考えた。

研究初年度として、まずは「教育体制」や「道徳の時間」の見直しを図ることにした。

2 研究のねらい

①道徳性を養うための「道徳の時間」の活用法を研究し、実践する。

→道徳性をどのように育てるか、教材や発問の工夫、授業構造を考える。

②豊かな心を育てるための教育体制づくりをする。

各学年で重点項目を設定し、授業実践・研究会を行って学年や全体で深める。

(各学年道徳担当、道徳主任、研究推進の連携)

→今年度は、国立教育政策研究所 教育課程研究センターよりスーパーバイザーとして西野真由美先生を招聘し、研究を深めた。

3 研究内容

◇主たる研究の概要のみ記載

《1学期》理論研修会

S V西野先生より「道徳教育の基本理念・実践法」を教えていただき、授業改善を行った。
→授業では、主に「意見が割れるような資料」を使い、「書く活動よりも言語活動の時間を多く」取り組むことで、1時間の中でさまざまな価値観にふれさせるような授業構造を考えた。

S V西野先生の言葉より

「みんなが生きやすくなるよう働くことを実感させることが、人生をよりよく生きるために大きく意義がある。道徳は、幸せになる力を付けるための時間。それを阻むものについて考えよう、というのが道徳の時間。」

【2学期の実践チェック項目（共通理解）】

- 子どもと一緒に授業をつくっていく場面の設定をする。
 - 「好きな人物（偉人など）について」自分で書いてきて話し合わせる。
 - 「友情」がなぜ大事なのか、道徳的価値の意義を考えさせる。
- 意見が割れるような資料を使う。（折り合いをつけさせるような仕組み）
- 「どうすれば善になるか」というHOWを考えさせる。
- 実践力を育てるための具体的な動作などを取り入れる。（スキルトレーニングは学級活動、など枠を作らない！）

【実践上の留意事項】

- ※少しでも、「次の問いを見いだす」ように仕組む。答えは出さなくてよく、とにかくたくさん考えさせるということ！
- ※小学校で学んだ道徳について、把握（授業やアンケートなど）する。「思いやり」でどんな授業をしたのか、自分が前とどう変わったのかなど。
- ※「価値」を押しつけない。子どもたちは善悪や価値はある程度学習（小学校時）している。

1学期の研修テーマは「生徒指導の三機能とE S Dに視点を置いた授業改善のヒント」であったが、S V西野先生より、テーマの実践ができているということであったため、2学期も引き続き実践を行った。

《2学期》研究授業・授業研究会

1学期の研究内容から、ジレンマ資料を使って研究授業を行った。
→ジレンマ資料から葛藤させ、折り合いをつけたり、他の意見を聞いて自分の考えを深めたりできる授業構造を中心に研究授業を行った。まずは自分の考えをしっかりと考えさせて提示し、他の意見や理由から葛藤があり、自分の立場をさらに明確にしていき、深めていくことをねらいとした。

《3学期》研修会（実践発表）

担任外をふくめて全職員が道徳の授業実践をし、学年で研究をまとめ、3月19日（木）にSV西野先生を招聘し、年間の研究をまとめて次年度に生かす。

【3学期の道徳研修会について】

2月中に各学年単位で道徳の授業（担任外含）・学年研究会をし、その研究資料（指導略案や研究会のまとめなど）を持ち寄って研修をする。

4 スーパーバイザーの役割

鳥取県教育センターのスーパーバイザーである国立教育政策研究所総括調査官の西野真由美先生を校内研修会や授業研究会に招聘し、道徳の時間の基礎基本についての指導や研究についての回答、日々の実践での質問等に対してご助言していただいた。

【SV西野先生のご指導・ご助言より】（一部抜粋）

- ◆ こういう道徳がいい！でなく、選択肢を増やしていくこと！
→ 授業の制約をとく！生徒の可能性をつぶさない！
- ◆ 道徳でどんなことを実現したいのか。
→ 子どもと一緒に授業をつくっていく！
- ◆ みなさんが授業づくりで大事にしていることは？悩み、考えていることは？
→ 子どもに決めてもらって（今日の価値項目など）進める時間があってもよい。
→ 「好きな人物（偉人など）について」自分で書いてきて話し合わせるのもいい。その人物について考えたこと、どこが好きなのかなど話させ、その人から価値を学ぶ！
→ よくWSに書かせたりするが、その時間を多くとるより、話し合う時間が多いほうがいい。意見が割れるような資料を使って、折り合いをつけていく！
→ 子どもが話し合う活動はOK。でも、積み上げないのはもったいない！
 次の問いを見いだす活動に！！
- ◆ 生徒は、小学校から道徳の価値項目を学んできているので、**善悪はわかっている**でも「どうすれば善になるか」というHOWを考えさせるとよい。
→ 小学校で学んだ道徳について、もっと中学校の先生が把握すること。「思いやり」でどんな授業をしたのか、自分が前とどう変わったのか。
→ 例えば、「絵葉書と切手」（資料）から、主人公はA子にどんな風に伝えてあげるのか、そこがスキル。伝えることは善だが、伝え方が問題。どうすれば善なる行動なのか。
- ◆ 道徳に正解があるのかないのか。
→ 多様な見方が必要。「正解が決まっているのが嫌」と思っている子どもの心境もある。（発問に対して、大人が喜ぶ答えに誘導されている感が嫌）

◆**発達段階に応じた指導が必要!**

→小学校低・中学年、小学校高学年・中学校で変える意識を。

→子どもたちは、いろんな見方・考え方を知り、自分で決めていきたい。本当に自分たちの役に立つ場にしたいと思っている。

◆「人としてよりよく生きる力を育てるために」子どもが問題を取り上げて、解決できるように!

→「友情」がなぜ大事なのか、道徳的価値の意義を考えさせる。

→実践力を育てるための具体的な動作などを取り入れる。

◆学活と道徳の違いは前から言われているが……。道徳でスキルトレーニングしちゃだめ? そうじゃない!

→道徳はコミュニケーションを増やしたほうがいい。子どもはそこから自分の中で答えを出していく。

【質問に対する回答より】(一部抜粋)

①**価値項目を生徒と指導者が共有しながら学ぶことが良いかどうか。**

たとえば、今日は「望ましい生活習慣を身につけて」ほしいので、この資料を使って学習します(しました)。

→よいことです。

中学生では、テーマを明確にして学習することは、価値についてあらためて問いなおす思考(「本当の思いやりとは何か」「よい友情とはどんな友情か」など)を促すことにつながります。積極的に活用してよいと思います。(中略)従って、授業のねらい(子どもへのメッセージ)は、「望ましい習慣を身につけるための自分の課題は何か」をこの学習を通して見つけてほしい、ということになります。授業展開も、「望ましい習慣を身につけよう」という決意表明を求めるのではなく、自分は具体的にどんな工夫ができるかを考えさせることができる展開が必要です。

②**ステップに合わせた指導法や対策があれば教えてください。**

道徳嫌いの集団に対しての手だて、ある程度向かう姿勢がある集団に対しての手だてなど。

→子どもの声を聞いて知ること、子どもに主体的な役割を担わせてあげること。

この二つがどのステップでも大切です。(中略)友だちと授業で話すのが嫌い、という子どもは少ないです。もし、それ(発表ではなく友たちと話すこと)が嫌だとすると、その学級には別の問題が隠れている可能性があります。その問題に対処する方が先です。

③**「道徳に対する拒否感の克服方法」を教えてください。**

わたしが考える拒否感のもととなっていること

(1) 小学校から今に至るまでの、価値観の押しつけとマナー化(少なくとも生徒はそう思っている)

→(1)の克服については、上の②で挙げたように、子ども同士で話ができる授業づくりをしていけば、十分可能です。

(2) 自分自身の嫌な部分や恥ずかしい部分を人に見せたくない思い

(a) 間違っただ値観を伝えたときの、周囲からの評価が心配。(→安心できる集団づくり)

(b) 自分自身と向き合うことができる力の欠如 (→個人差があり、難しさを感じる)

→上のご指摘は、いずれも中学生の道徳授業を考える上でとても重要です。(2) については、無理に自己開示を求めないことも中学生には必要です。

上の生活習慣の例で「自分の課題」と書きましたが、授業で常に「自分と向き合う」ことを求めています。

(中略)

「友だちのよさを見つける」、「一緒に考える楽しさを知る」、「違う意見を聴き合う面白さがわかる」。これらは、「自分と向き合う」ことと同じくらい大切な道徳授業の目標です。

そして、これらの体験を重ねると、自然に「問い」が自分に向かうようになっていきます。

自分との対話ができない子どもは、他者とも充実した対話できていません。自分がよいと思っっていることに対して、他者が違う意見を持っていれば、「どうして？」と対話が始まり、相手が「君こそどうしてそうなの？」と尋ねれば、自分に向き合って答えを探さなければならなくなります。この体験が自分との対話の始まりです。

道徳授業の目標は、子どもたちが「道徳の授業は、友だちの色々な意見が聞けて楽しい」と言ってくれるような授業づくりです。まずそれを実現できるようにしてから、次のステップを考えましょう。

以上のように、「道徳の時間のあり方」や実践での疑問点等に対して、一つ一つ丁寧に教えていただき、日々の授業実践に生かすことができた。

5 研究のまとめ

(1) 【成果】

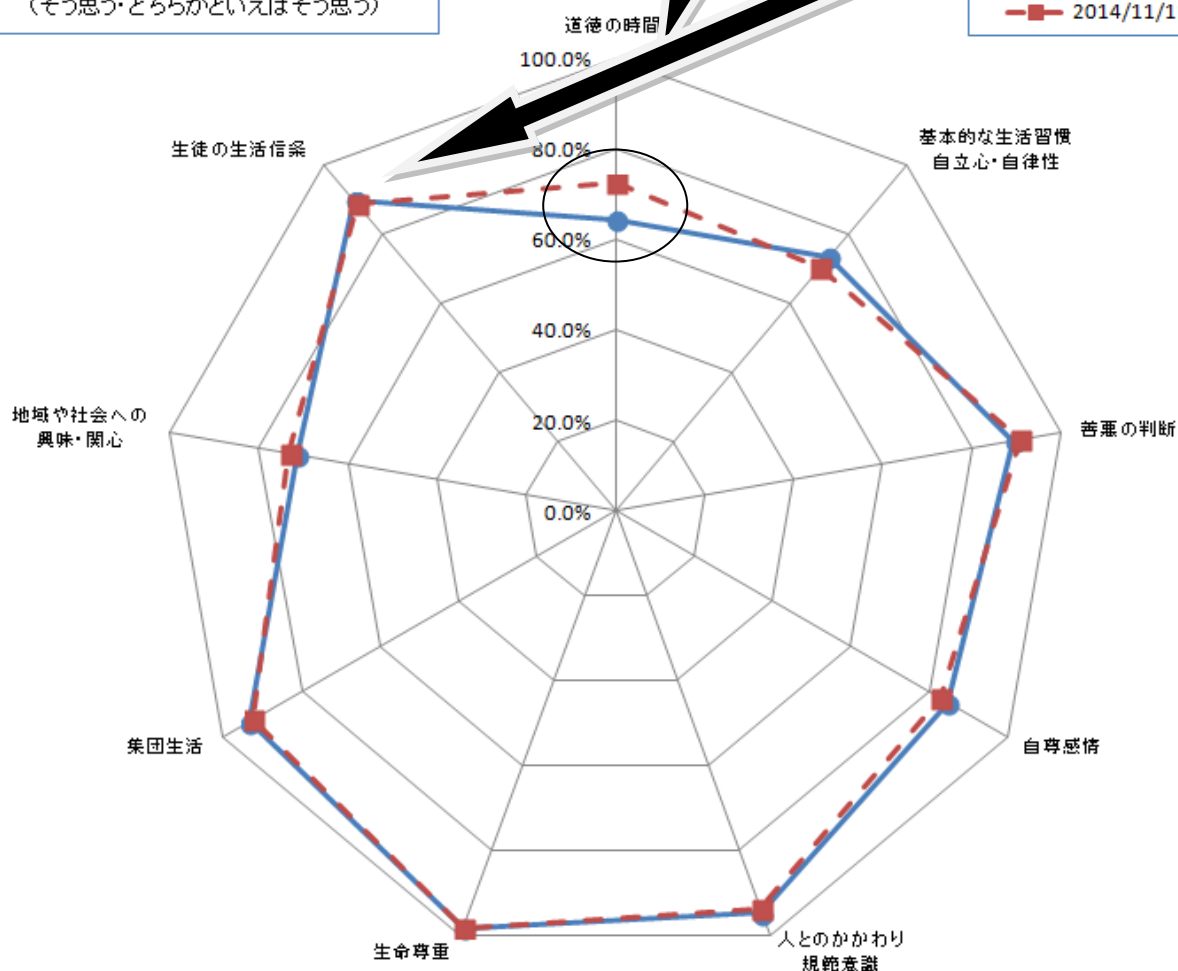
- ① S V 西野先生より、1 学期よりテーマの実践ができているという評価をいただき、自信を持って全職員が授業実践を行うことができた。
- ② 1 学期の理論研修で西野先生から「道徳の時間のあり方」をわかりやすく教えていただき、道徳性を養うための「道徳の時間」についてめざす方向が明確になった。

③ 「道徳アンケート」 から

道徳アンケート 全校			実施日	上段:	2014/5/30	
				下段:	2014/11/11	
三朝中学校	NO	質問項目	(できている)	(そう思う)	(どちらかといえば)	(できていない)
			(できている)	(そう思う)	(どちらかといえば)	(できていない)
道徳の時間	1	「道徳の時間」の勉強は、好きである	9.9%	33.8%	45.7%	10.6%
	2	「道徳の時間」の勉強は、ためになると思う	16.3%	35.9%	41.8%	5.9%
	3	「道徳の時間」では、ほかの人の考えを聞きながら、自分のことについてよく考えている	26.5%	47.0%	23.2%	3.3%
生徒の生活信条	23	仲間を大事にすることを意識しています。	24.2%	60.8%	13.7%	1.3%
	24	学校生活で、良い事良くない事を気づくように意識しています。	21.9%	54.3%	21.9%	2.0%
	25	係りや当番活動をやりきろうと意識しています。	22.9%	56.9%	17.6%	2.6%
	26	行事などの活動で、燃え上がることを意識しています。	51.7%	41.7%	6.0%	0.7%
	27	苦手なことでも、あきらめずに取り組もうと意識しています。	57.5%	35.3%	5.9%	1.3%
			45.0%	43.7%	10.6%	0.7%
		47.1%	43.8%	7.2%	2.0%	
		54.3%	35.8%	9.3%	0.7%	
		52.9%	37.9%	8.5%	0.7%	
		40.4%	45.0%	13.9%	0.7%	
		40.5%	43.8%	13.7%	2.0%	
		47.7%	42.4%	9.3%	0.7%	
		25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	

道徳アンケート 肯定的評価
(そう思う・どちらかといえばそう思う)

● 2014/5/30
■ 2014/11/11



前ページの表とグラフは、平成26年5月と11月に行った「道徳アンケート」の比較である。一番変化が現れた項目は「道徳の時間」であった。「道徳の時間の勉強は好きである」「道徳の時間の勉強はためになると思う」「他の人の考えを聞きながら、自分のことについてよく考えている」という項目の総合肯定的評価が、5月は64.4%に対し、11月は72.3%と上がったことは、研究実践の大きな成果であった。

また、「生徒の生活信条」項目については、昨年度の人間関係づくり部会アンケートで65%であったことに対し、今年度は肯定的評価が89%と24%も上がった。下の内容項目にあるとおり、「仲間を大事にすること」「善悪に気づくこと」など、道徳性の高まりが現れたことも研究実践の成果であったと考える。

(2)【課題】

(今年度の振り返り)

- ①積み上げた道徳性を次に生かす工夫をし、次の問いを見いだす活動にする必要がある。
- ②学んだ道徳の価値項目を「どうすれば善になるか」というHOWを伝え続けていく必要がある。
- ③道徳の別葉を作成しているが、本校生徒に必要とされる価値項目の学習をするだけでなく、なるべく全範囲の学習ができるようにする必要がある。

(来年度に向けて)

- ①「道徳の時間」の実践だけでなく、他の教科の授業や指導の場面を含め、「道徳教育」として取り組みを広げていく必要がある。
- ②今年度の研究の成果を、来年度さらに発展させていくための研究を継続する必要がある。
- ③3年間のスパンで子どもたちが「こんな風に生きていきたいな」と思える指導計画や授業構造を研究する。

6 おわりに

理論研修や授業研究、教育体制づくりをとおり、成果として生徒の評価が上がったこともさることながら、道徳の時間は「幸せになる力を付けるための時間」であり、「それを阻むものについて考える」ものであることがわかった。みんなが生きやすくなるよう働くことを実感させることが、人生をよりよく生きるために大きく意義があることだと学ぶことができ、全職員の意識が高まったことは今後の前進の大きな一歩となった。

本校の研究の第一段階を無事に終えることができたのは、他ならぬSV西野先生のご指導のおかげである。ご指導・ご助言していただいたことに感謝し、これからさらなる研究をとおして、生徒に還元できるよう精進していきたい。

第2学年 道徳学習指導案

2年〇組 〇名
 教室 2年 〇組
 授業者 〇〇 〇〇

1. 主題名 かけがえのない自他の生命を尊重して 3－(1) 生命の尊重
 (関連項目) 4－(6) 家族愛 4－(1) 社会秩序 4－(3) 公正公平

2. 資料名 「奇跡の生還」
 出典 「モラルジレンマによる討論の授業〈中学校編〉」荒木紀幸編(明治図書)より

3. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目3－(1)は、「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する」ことを目指している。生命とは、かけがえのない大切なものであり、自己の生命だけではなく、すべての生命を軽々しく扱ってはならない。しかし、近年のニュースでは自他の生命を軽視した行動が社会問題として頻りに報道されている。また、中学生は生き方や考え方に関心が高まる時期であるにも関わらず、生命の尊さについて自覚したり考えたりする機会があまりなく、自己の生命に対するありがたみを感じている生徒は少ない。だからこそ、この時期に生命の尊さについて考え、かけがえのない自他の生命を尊重することを理解することは意義深いと考える。

しかし、世の中には生命の尊さを純粋に追い求めることができない社会の複雑さが存在することも事実である。そこで、生命を尊ぶために他にも考えなければならないことを示すことで、さまざまな価値観に触れ、葛藤する場面をとおして生命の尊重について自らの考え方を構築させたい。

(2) 生徒について

生徒たちを取り巻くこれまでの生活の中では、命が奪われるニュースが当たり前のように流され、命をかけたがえのないものとして意識する感覚は鈍くなってきていると思われる。学校生活の中では、この時期に人権集会が行われ、今回は「いじめ」や「虐待」に関して自他の人権について考え、よりよい自分の行動や決意を考えてきた。これまで、仲間外れやいじめは無いものの、互いに対して軽い調子で言う「うざい」「死ね」などの発言が見られ、そのたびに個別、全体で指導してきた。

しかし、今年8月の広島土砂災害や10月の御嶽山噴火の被害報道をとおして、自他の命の大切さについて考えた生徒が多く見られ、生活ノートの中でも、自分や家族の命の大切さについて考えた生徒が多かった。

学年集団の中には、社会や学校生活のルールをしっかりと守ろうとする意識の強い生徒たちが多い。その生徒たちが「社会秩序を守る」と「生命を尊重する」ことの間で葛藤し、互いの考えを意見交流で伝えあい、より深く、人間一人ひとりの命の重さについて考えるようになってほしいと願っている。

(3) 資料について

取り扱う資料は、1988年に旧ソ連のアルメニア共和国で起きた大地震の時の実話をもとにしている。

ジュリエッタの兄はビルの地下から5日目に救出される。兄は衰弱しきっていたが、同じように順番を待つ人が多く、治療を受けることができない。1ヶ月後、ジュリエッタは容態が悪化した兄を救うべく、他の病院に運ぶ。しかし、同じく病院の玄関前には、何百人もの人々が長蛇の列を作っている。ジュリエッタは咄嗟に嘘をつく。「兄は35日ぶりに今日、救出されたのです。」ジュリエッタの訴えを聞いた医者はこの奇

跡に驚き、誰よりも先に兄の治療に取りかかる。おかげで兄の容態は回復する。

現在の2年生は、自分の考えを持っている生徒が多く、クラスにおいて発言できる生徒もいる。しかし、いい意見を持ちながらも発表をためらう生徒も多い。リーダー性のある生徒が表に出にくいことが我々の悩みとしてあるため、少しでも前向きに発表できる雰囲気を作りたい。

この資料は、ジレンマ資料である。主題名には「生命の尊重」を中心主題として取り上げたが、「社会秩序」や「公正公平」とも関連する。生徒はその間で考えが揺れる。自分の意見を出すには適切な資料である。

4. 指導計画

第1次・・・資料前半を読んで状況を確認し、「私だったらどうするか」を考え、判断・理由づけをする。

第2次(本時)・・・資料後半を読み、主人公の行為に賛成か反対かを考え、判断・理由づけをする。それをもとに意見交流を行い、再度、判断・理由づけをする。

5. ねらい

・それぞれの立場、価値観の違いはあるが、誰の命もかけがえのない大切なものであるとする心情を育てる。

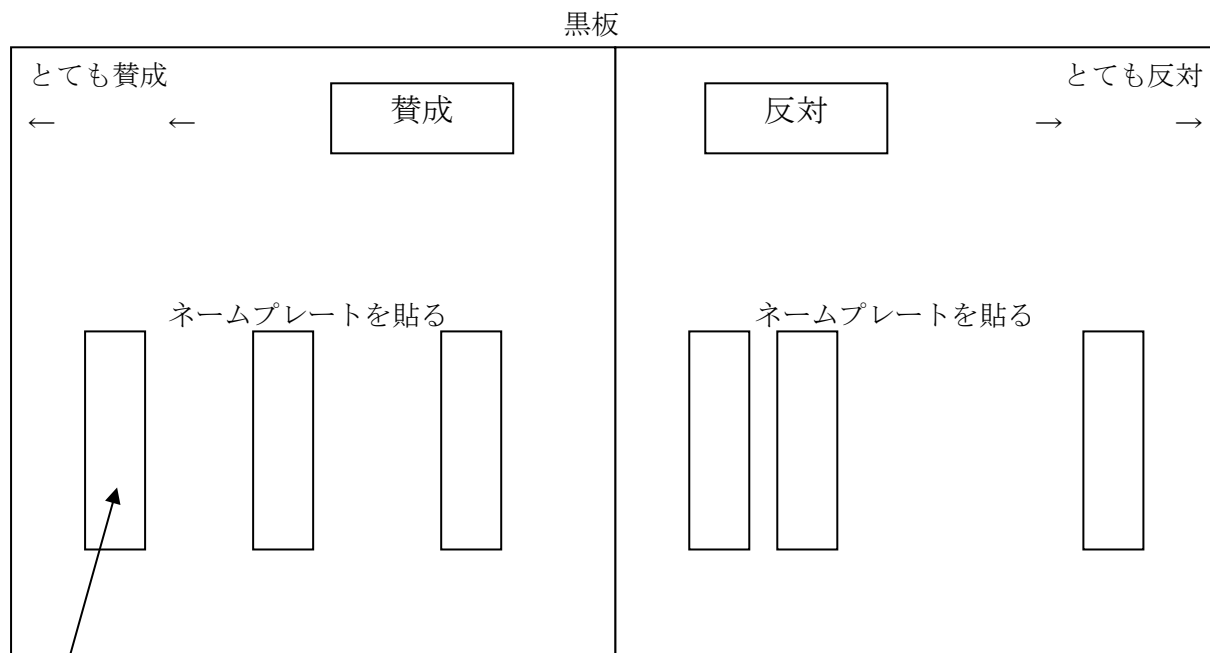
6. 準備 資料、ワークシート、ネームプレート、ホワイトボード、デジタルTV、PC

7. 展開

段階	学習活動、 主発問 と◆予想される生徒の反応	指導上の留意点、◎評価
導入	1. 前時の内容を確認する。 2. 後半資料を読み、状況を確認し、問題は何かを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">ジュリエッタの行為に賛成ですか反対ですか</div>	・前時で考えた「判断・理由づけ」をとおして、本時の学習への意識を高める。 ・教師が資料を読み、主人公の葛藤を確認し、討論への動機づけにする。
展開	3. ジュリエッタの行為に賛成か反対か意思表示と理由をワークシートに記入する。 4. ネームプレートで意思表示をし、意見別に席を移動する。 賛成→青 反対→赤 5. 討論の心構えを確認する。 6. 意見交流をする。 ○賛成 ◆嘘をついてもたった一人の兄だからどうしても命を救いたい。 ◆順番待ちをしていると兄が死んでしまうかもしれない。 ×反対 ◆兄を助きたい気持ちはわかるが、嘘をついてはいけない。	・ジュリエッタのおかれた状況で判断し、必ずその理由を書かせる。机間指導で意見を把握する。記入が滞っている生徒には状況を掴ませて判断を促す。 ・話し方と聞き方の確認をする。 ・ワークシートに記入したことを発表させるだけでなく、発表された意見に対する考えや質問も自由にさせる。 ・様子を見て、同じ意見のもの同士が話し合える場面を設定し、討論の活性化を促す。

<p>終末</p>	<p>◆他の人だって死にそうな人がいるかもしれないにずるい。 ◆どの人も大変で治療を受けたいから並んで順番を待っている。 (補助発問) 自分の家族が列に並んでいたら? みんながそんなことをしたら? 自分が兄の立場だったら? など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意見の中からキーワードを整理して提示していく。 ・様子を見て補助発問をする。
	<p>7. もう一度ジュリエッタの行為に賛成か反対か意思表示と理由をワークシートに記入する。</p> <p>8. 意見交流をする。 (補助発問) 印象に残った意見はありませんか?</p> <p>9. 賛成か反対か迷ったり、意見が変わったりするのはなぜか考える。</p> <p>10. 授業の感想を書く。</p>	<p>ジュリエッタの行為に賛成ですか反対ですか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先の判断にとらわれなくて、自由に判断・理由づけをさせる。 ・意見が変わった生徒に発表させる。 ・意見が変わった生徒が少ない場合は、補助発問をする。 <p>◎それぞれの立場、価値観の違いはあるが、誰の命もかけがえのない大切なものであると考えていることに気づくことができたか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの意見が発表されたことを評価する。

板書計画



生徒が「理由と名前」を書いたプレート貼っていく。